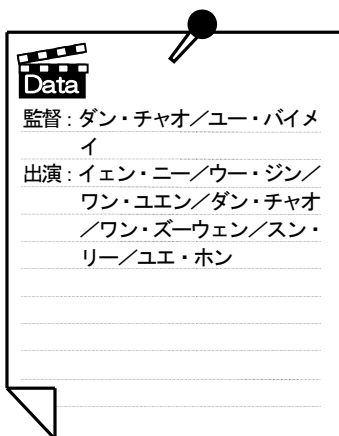




👁️👁️ みどころ

中国は広いから、飛行機網がしっかり整備されている。しかし、ファーストクラスに座って故郷に凱旋しているセレブの隣に座ってきた“自称リンゴ商”の男は何者？ひょっとして詐欺師？

“インフルエンサー”って何？中国、陝西省のムース砂漠でおいしいリンゴがホントに作れるの？そんな話題も含め、第4話のあっと驚く面白さをしっかり味わいたい！

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■中国映画には詐欺師まがいの物語がよく似合う！■□■

レオナルド・ディカプリオが主演した『キャッチ・ミー・イフ・ユー・キャン』（02年）は天才詐欺師の物語だった（『シネマ3』93頁）が、私の持論では、詐欺師の主人公が最もよく似合うのは断然中国映画。1本目の『続・Hello 北京』の名優、葛優（グォ・ヨウ）なんか、詐欺師の役をやらせれば、そりゃ最高！

『イチカバチカー—上海新事情』（00年）（『シネマ5』340頁）はリストラされた労働者を主人公にしたタイトル通りの面白い映画だったが、そこでは“儲かる話”を巡るインチキめいたストーリーが次々と展開していった。また、張藝謀（チャン・イーモウ）監督の『幸せ三部作』の1つである『至福の時』（02年）（『シネマ5』199頁）は大連を舞台にした面白い映画だったが、涙、涙また涙の感動作である同作も、よく考えてみれば、通貨偽造罪と詐欺罪は成立するか？という法的論点を含む詐欺師まがいの中年おじさんの物語だった。他方、フーテンの寅さんは、バナナのたたき売りはやっていても、それはレッキとした仕事で、決して詐欺師ではない。邦画ではそんな寅さんがピッタリだが、中国映画では詐欺師まがいの物語がよく似合う・・・？

■□■第4話の主人公も詐欺師？同級生は本物のセレブだが■□■

第4話の主人公は、導入部の飛行機内の言動でたちまち詐欺師ぶりを露呈してしまう男、喬樹林（鄧超（ダン・チャオ））。マネージャーと共にファーストクラスに乗り込んできた女性、閆飛燕（閆妮（ヤン・ニー））は本物のセレブだが、喬はなぜこの飛行機に乗り込んできたの？

喬はファーストクラスの閆の隣の席に座り込み、気安くあれこれ話しかけてきたが、彼の本来の席は一般席。客室乗務員からそれを指摘されると、喬は仕方なく自分の席に戻ったが、「私はリンゴ商」と自己紹介していたこの男は、ホントにムース砂漠で世界一おいしいリンゴを製造し、販売しているの？ひょっとして、この男も詐欺師では？また、喬の話では、喬と閆は同じ学校の同級生だそうだが、それってホント？閆は今、小学校の40周年式典で祝辞を述べるために故郷に向かうこの飛行機に乗り込んでいるのだが、喬はなぜ同じ飛行機に？

■□■セレブのインフルエンサーはご招待！だが、この男は？■□■

私はAKB48の『ヘビーローテーション』はよくカラオケで歌っていたが、『インフルエンサー』が発売された時は、そもそも『インフルエンサー』とは何か？がサッパリ分からなかった。もし、銀座の飲み屋で「インフルエンザ」とリクエストしたら、馬鹿にされていたはずだ。

しかして、本作に“本物のセレブ”として登場する閆飛燕は、ネットショップで有名なインフルエンサーだ。彼女が今、飛行機に乗り込んでいるのは、故郷の陝西省ムース砂漠にある小学校で開かれる、母校の設立記念日の式典に招待され、久々に帰郷するためだ。それに対して、閆がたまたま飛行機内で一緒になった男、喬は、自称リンゴ商。彼はムース砂漠で、世界一おいしいリンゴを製造し販売しているそうだが、その話はどこまでホント？もっとも、飛行機内での話や小学校に到着してからの話を総合して聞いていると、喬と閆が同じ小学校の同級生だったことは間違いなさそうだが・・・。

■□■第4話の舞台は？広大な果樹園はどこに？■□■

喬と閆の故郷である、陝西省ムース砂漠は、陝西省・内モンゴル自治区・寧夏回族自治区に位置する“中国四大砂漠”の一つだそう。第4話では、閆が喬と共に車に乗って故郷の発展状況を視察するシークエンスが登場するので、私たちも一緒にそれを視察することができる。しかして、喬の言う壮大な果樹園は一体どこに？

第4話でも、注目点は主人公、喬の詐欺師ぶりだが、そんな喬であっても、彼の故郷を思う気持ちや世界一おいしいリンゴを作りたいという熱い思いは十分理解できる。そんな男をどこまで評価できるのかはよくわからないが、中国映画ではそんな詐欺師めいた主人公がよく似合うことは間違いない。

なお、第4話には『戦狼 ウルフ・オブ・ウォー（戦狼2）』（17年）『シネマ44』（43頁）の監督・脚本・主演の吳京（ウー・ジン）が休憩地のレストラン店の店主役で友情出演しているので、それにも注目！

2021（令和3）年6月3日記

郷土の故郷

第4話
故郷への旅



BEIJING JINGXI CULTURE&TOURISM
CO.,LTD./CHINA FILM CO.,LTD.

製作総指揮：チャン・イーモウ (張
一白) 総監督：チャン・イーモウ (張
一白) 監修：ニン・ハオ (寧浩)、チェン
スーシェン (陳思誠)、シュージェ
ン (余華)、ダン・チャオ (董建
宇) ユー・リメイ (俞白眉)、ボン・ダー
モ (彭大器) エン・フエイ (閔非
2020 年 / 中国 / 152 分)
課題：我和我的家乡

配給：wow cool



2020年/中国/152分

原題：我和我的家鄉

配后:WOW cool
entertainment

ENTER HERE

北京から始まった『愛しの故郷』第4話の舞台は中国四大砂漠の一つ、陝西省の毛烏素砂漠。冒頭、内蒙古自治区にある某小学校の40周年式典で、祝辞を述べるためフースエ・ウナスに座る美女・閻飛燕（閻妃）とその隣に乗り込んでくる「りんご商」と名乗る同級生（？）の喬樹林（邪樹）が登場する。彼は毛烏素砂漠で世界一美味しいりんごを製造、販売してしまっているが、それによって阿部サダヲ主演の『奇跡の入口』（13年）は「神の領域」と言われるりんごの無農薬栽培に私財を投げ打って取り組む男とそれを受けた妻の涙の実話だったが、砂漠の中に本当に果樹園が？

天才詐欺師の物語は多いが、『第1話続・Hello北京』で観たように、名優・葛優は詐欺師役をやられれば超一流。涙の感動作だった『至福のとき』（02年）だつてもよく考えれば詐欺師まがいの中年おやしの物語だった。フーテンの養子さんがやっていた（い

陝西省の毛烏素砂漠で、世界一美味しいりんご栽培を？
第4話も詐欺師まがいの男を主人公に、巧妙なドタバタ劇が！

ナナの叩き売りは生業だから決して詐欺ではない。邦画ではそんな真実さんがピッタリだが、中国映画では詐欺師まがいの物語が実によく似合う。空海と晁蓋、関は簡と共に故郷の発展状況を視察したが、広大な果樹園は一体どこに？ 私はAKB48の『べービー・ロンリー・ション』をカラオケでよく歌っていたが、乃木坂46の『インフルエンス』が発売された時は正直それって一体ナニ？ もしあの時『インフルエンス』というエントリしていたら赤い恥を？ 自己宣伝のために有名人を利用する経営者は安倍元総理射殺事件で政治上天にきた日統一教会と政上家の関係で明らかに、常識にとつて圖のよる広告塔を活用できれば最高！ 本作では冒頭からバレバシの詐欺師ぶりに注目しながら美女と野獣のトクハタ劇を楽しみたい。もちろん世界一美味しいりんご栽培は囃つぱち。否！ ひとつとして一さあ、あなただけには一体何が？

十寶丹

坂和亭

中国映画を語る (66)



(なかわ・しやうくう)
1949年愛媛県松山市生まれ。大阪大学法学部卒。都市開発に関わる訴訟を数多く手がけ、日本都市計画学会「石川賞」、同年に日本不動産学会「業務著作賞」を受賞。『坂和の中国電影大観』(2004年)

映画を斬る！』シリーズをはじめ映画に関する著書多数。（公
社）日中友好協会参与、NPO法人大阪府日中友好協会理事。